

7・7「クールアース・デー」を創設

ライトダウン

地球温暖化対策へ 7万6000施設が一斉消灯



太田代表(中央)は七夕前日の7月6日に、鴨下 前環境大臣(右隣)らと街頭演説。右上はライトダウンした東京タワー(同7日)

公明党青年局による署名運動で創設された「クールアース・デー」。毎年7月7日の七夕に、国民全体で地球環境問題を考える日です。北海道洞爺湖サミット開催初日となった7月7日には、午後8時から10時まで、CO2削減を目指した一斉消灯(ライトダウン)が、東京タワーや国会議事堂をはじめ、全国約7万6000カ所の施設で行われました。鴨下 前環境大臣は「1000万人が関与する一大イベントになった」と声をはずませました。

OHTA
AKIHIRO

太田代表

ノーベル平和賞・マータイ博士、 パン 国連事務総長と“環境対談”

太田代表は5月28日、ケニアの環境活動家でノーベル平和賞受賞者のワンガリ・マータイ博士と会談。マータイ博士は、平和や環境問題への政策など「公明党から学ぶことがたくさんあります」と評価。太田代表は「『もったいない』の思想を世界に広めた博士に心から感謝」と述べました。

また6月30日には、潘基文(パン・ギムン)国連事務総長と会談。地球温暖化対策などについて意見を交換しました。



ケニアのマータイ博士と



潘国連事務総長と再会

北区で「環境アンケート」

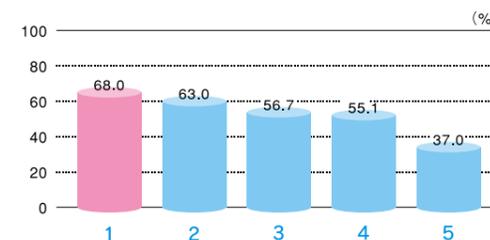
地球にやさしいこと 私から。

党東京第12総支部では、北海道洞爺湖サミットの開催にあわせ、北区内で「環境アンケート」を実施しました。アンケート結果からは、女性の意識の高さが目立ち、マイバッグでの買い物やリサイクルの推進など、特に高齢者が積極的に実践していることが分かりました。ここでは、アンケート結果(複数回答)の一部を紹介します。

Q1 今より「もっと努力できる」ことは?

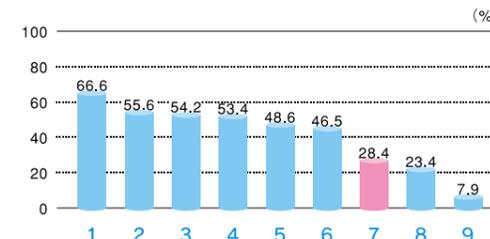
- 1 エコに対する意識をもっと高められるはず 68.0%
- 2 ゴミの量をもっと減らせるはず 63.0%
- 3 もっとリサイクルに協力できるはず 56.7%
- 4 自転車や公共交通機関をもっと利用できるはず 55.1%
- 5 もっと環境に配慮した生活用品を選べるはず 37.0%

ゴミの量を減らしたり、自転車や公共交通機関をもっと利用するなど、多くの人が今より「もっと努力できる」と感じています。



Q2 あなたが行っている「エコ活動」は?

- 1 冷・暖房を効かせすぎない 66.6%
- 2 なるべく自転車や公共交通機関を利用する 55.6%
- 3 リサイクルを心がける 54.2%
- 4 ゴミの量を増やさない努力をする 53.4%
- 5 使っていない電化製品のコンセントを抜く 48.6%
- 6 マイバッグで買い物をする 46.5%
- 7 家庭の白熱灯を蛍光灯に切り替える 28.4%
- 8 クールビズの着用 23.4%
- 9 外食する時に「マイ箸」を持参する 7.9%



7割近くの方が「冷・暖房を効かせすぎない」を実践していますが、世界的な流れとなっている「白熱灯から蛍光灯への切り替え」は、3割未満でした。

Q3 政治が取り組むべき温暖化対策は?

- 1 植林・植樹活動などを推進して緑をふやす 68.4%
- 2 風力や太陽光など自然エネルギーの有効利用 57.9%
- 3 各企業の二酸化炭素排出量の規制 52.8%
- 4 小・中学校での環境教育の充実 46.0%
- 5 エコカー(電気自動車など)の導入・促進 38.3%
- 6 環境に優しい商品購入を促す「エコポイント制」導入 36.0%

「植林・植樹活動の推進」との回答は7割近くに、「自然エネルギーの有効利用」や「各企業への規制」にも多くの意見が寄せられました。



今回のアンケートに寄せられた意見には、「太陽光発電の設備導入への助成」「環境教育の充実」「バイオ燃料の研究・促進」などがありました。太田代表は「皆様の声をもとに、国会質問や政策立案を行い、地球温暖化対策に全力で取り組んでまいります!」と語りました。

皆様の声をもとに
取り組んでまいります!

